

《パネルディスカッション》
《패널 디스커션》

特別養護老人ホームにおける
日常生活の質の向上

특별양호노인홈에 있어서의
일상생활의 질의 향상

横井 保子

요코이 야스코

本多聞高齢者介護支援センター 介護支援専門員

혼다문 고령자 개호지원센터 개호지원전문원

特別養護老人ホームにおける日常生活の質の向上



横井 保子
本多聞高齢者介護支援センター
介護支援専門員

．施設の概要

1．施設の設備・居室

入居者人数：特別養護老人ホーム 80 床
+ 短期入所生活介護 30 床 = 110 床

居室数：個室 14 部屋
2 人部屋 10 部屋
4 人部屋 19 部屋

入居場所別人数：
1F フロア(短期入所生活介護を含む) = 30 人
2F フロア = 26 人 + 28 人
認知症対応フロア(短期入所生活介護を含む) = 26 人

2. 入居者の要介護度・年齢分布

入居者の要介護度別状況

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男	0	0	1	4	5	2
女	0	2	11	14	23	17
合計	0	2	12	18	28	19
平均要介護度						4

入居者年齢分布

	男	女	合計	比率
～64歳	0	1	1	1.25%
65歳～69歳	0	0	0	0.00%
70歳～74歳	4	2	6	7.50%
75歳～79歳	1	5	6	7.50%
80歳～84歳	2	10	12	15.00%
85歳～89歳	3	17	20	25.00%
90歳～94歳	2	16	18	22.50%
95歳～99歳	1	12	13	16.25%
100歳～	0	4	4	5.00%

嚥下障害のために経管栄養を行っている入居者は常時4名、
入居者の90%に認知症がある。

入居者の介護度の重度化、年齢の高齢化が進行しているなかで、
様々な障害や疾病に対応した介護が求められている。

(例) 身体的障害がないが、認知症の高齢者

認知症の進行防止・徘徊による転倒の防止

四肢の麻痺がある高齢者

食事や排泄の介護・拘縮の防止・褥瘡の防止

それぞれが持つ障害や疾病が違えば、それぞれが求める『生活の質』も違ってくる。

3. 費用負担

2005年10月に自己負担額が変更となり、在宅の高齢者との生活費用の格差の是正のため、食費・居住費が自己負担となる。

要介護度3の入居者の1ヶ月の費用負担例

(旧制度)

段階	
1段階	24,300円
2段階	40,100円
3段階以上	50,939円

(新制度)

段階	多床室(2~4人部屋)	個室
1段階	24,300円	34,220円
2段階	37,010円	40,110円
3段階	54,670円	69,492円
4段階以上	79,265円	102,352円



* 段階・・・介護保険料段階(収入に応じて段階が決定)

制度改正によって自己負担額が増額となった入居者も多い。

最近では、特別養護老人ホームを利用する高齢者や高齢者の家族は、「利用させてもらっている」という感覚から、「利用する、選ぶ」という権利意識を持ち始めている。

費用負担額増額、食費負担額の増額により、高齢者や高齢者の家族が、より質の高いサービス、質の高い食事内容を求めるのも当然の感覚である。

・日常生活の『質の向上』をめざして

特別養護老人ホームでの日常生活の『質の向上』に向けて、実際に行っている具体的な取り組み、介護内容を紹介する。

1. 安全と安心を守る

安全かつ安心できる生活はすべての基本である。

行動の予測がつかない高齢者の危険を防止することは、困難なことが多い。しかし、入居者の家族や第三者からすると、安全を守ることは当然のことと捉えられている。

前述のように、利用者や利用者の家族の権利意識が高まり、介護事故が訴訟問題になることも多い。

安全を守るための取り組みとして、リスクマネジメント委員会を設置し、事故が起こる要因を分析し、対応策の検討、実施を行っている。

1) ヒヤリハット報告書の提出

日常生活や介護のなかで、職員が危ないと感じたこと（ひやりとしたこと）、危険だと気付いたこと（はつとしたこと）を毎日一人最低1枚、「ヒヤリハット報告書」に記入。

ヒヤリハット報告書の目的

危険予測力を身につける

危険に対する意識を高める

2) 集計

ヒヤリハット報告書を一ヶ月ごとに集計し、一覧にして全職員に配布。

報告書の集計と配布の目的

情報の共有(自分が知らないところで起こっている危険を知る)

危険察知力の向上(自分は危険と感じていなかったことを他人

は事故が起こる危険につながると感じていることを知る)

3) 分析

リスクマネジメント委員会が集計結果をもとに、危険が多発する場所、時間等を分析し対応を話し合う。

優先課題

事故、または事故に至る「ヒヤリハット」した場面が頻繁に起きている問題

今後、重大な事故につながる危険が高い問題

4) 対応策の決定と実施

分析の結果をふまえて、それぞれの事例に対して、対応策を決める。
決められた対応策を全職員に周知させ、実施していく。

現在、老人福祉施設には、『身体拘束禁止』が課せられている。
ベッドから落ちる危険がある入居者のベッドの四方をベッド柵で囲んだり、
車椅子からずり落ちる危険がある入居者に安全ベルトをつけることは禁じ
られている。

安全を守るということは、危険を回避し、事故を未然に防ぐことであり、
危険を排除することではない。

リスクマネジメント活動の具体的事例

A氏：女性

下肢筋力の低下により、立ち上がり、立位ともに不安定
認知症があり、自分の歩行能力等は自覚できておらず。幻聴等の訴え
もある。

(1) A氏のヒヤリハット報告書の集計結果

月日	時間	場所	
8月1日	16:45	居室	自力で車椅子に移乗していた。移乗時に転倒する危険あり。 「家に帰ろうと思った」とのこと。
8月3日	7:00	居室	自力で車椅子に移乗しようとしているが、車椅子が遠く、 うまく移乗できず転倒の危険あり。
8月10日	17:00	居室	自力で車椅子に移乗していた。トイレに行きたかった様子が、 ズボンを下げたまま移乗しており、転倒の危険あり。
8月24日	16:35	居室	ベッドに座っている。用件は不明だがどこかに向かって歩 こうとした様子。
8月28日	16:00	居室	自力で車椅子に移乗しているが、臀部が半分しか座れてお らず、滑り落ちる危険あり。
8月29日	21:00	居室	ベッドに座り、靴を履こうとしてベッド下をのぞきこんでい る。バランスが悪くベッドから落ちる危険あり。

(2) ヒヤリハット報告書をもとに、

事故が起こる可能性が高い時間、場所、要因を分析。

(分析結果)

- ・デイルームでは立ち上がることもないが、臥床時に自力で車椅子
に移乗することがある。

- ・ 16時から17時の時間帯にかけて、精神的に不安定になり、どこかに歩き出そうとすることがある。
- ・ 車椅子をベッドの近くに設置していた場合は、上手く自力で移乗できることもある。

(3)分析をもとに、転倒、転落防止のための対応策を決定。

(対応)

短いベッド柵を足元と頭側に設置し、立ち上がる際の支えになるようにする。

車椅子はベッドに近付け、自力で移乗することが可能な位置に設置する。

靴はベッドに座った際に、本人の目に入るところに置く。

16時から17時の間はデイルームで職員と過ごし、レクリエーション等を通して、A氏の精神的安定をはかる。

16時から17時の間に本人の希望で臥床した場合は、頻回に訪室し、A氏の様子を観察する。

危険や事故を防ぐための対応といっても、不安定ながらも歩くことができる入居者に、転倒防止のために車椅子を使うことではない。

転倒しないように付き添って歩く、歩行能力に見合った歩行補助用具を使用する等の対応が必要である。

「歩きたい」「立ち上がりたい」という入居者の意思を奪ってはならない。

入居者の自由、希望、可能性を尊重しながら、それに伴う危険を予測し、事故を未然に防いでいくことが、入居者の安全を守ることであり、生活の質を守ることであると考えている。

2. 創意・工夫

1) 食事面での工夫

入居者の食費の負担が増え、食事に期待がかけられている反面、施設収入としての食費の増額がなく、食材等に費用をかけられないのが現実である。食事そのものに費用をかけられない分、現場の取り組みにより、食事時間の充実を目指している。

《 選択メニュー 》

- ・副食のメニューを『肉料理』『魚料理』など、2品の献立を準備し、入居者が献立を選ぶ機会をつくる。
事前の準備が必要なため、当日の朝までに嗜好を調査している。
- ・おやつメニューを『和菓子』と『洋菓子』など、趣向の違うおやつを準備したり、食事の汁物を味噌汁とスープの2種類準備する。
- ・事前に嗜好を調べることなく、その場でどちらにするかを選ぶ。
- ・決められた時間に、決められた食事を摂ることに慣れている入居者に、『選ぶ』という自己決定の機会となっている。

《 ご飯を炊く 》

- ・フロアに炊飯器を設置し、入居者が米を洗い、夕食のためのご飯を炊いている。
- ・施設の設備上、フロア内に台所や煮炊きができる火を使える場所がないため、現在のところは、毎日の食事の準備としては炊飯のみしか行っていない。
- ・認知症の高齢者であっても、昔から毎日行っていた洗米や水の計量などは身体が覚えており、得意気に炊飯をしている。

《 おやつ・料理づくり 》

- ・毎月1回～2回程度、入居者と職員と一緒に昼食やおやつを作り、出来立てを食べる。
- ・季節に応じた献立 ちらし寿司・南京の煮付け
- ・利用者の故郷料理・利用者からリクエストのあった献立 たこ焼・故郷の正月料理
- ・おやつづくり おはぎ・団子
- ・設備が不十分なため、鍋や携帯用コンロなどを職員が各家庭から持ち寄って調理をする。
- ・必要以上に時間がかかったり、失敗することもあるが、好評を得て

いる。

《 一緒に食事を食べる 》

- ・ 食事介助担当以外の職員や、休憩時間に入る職員が、入居者とともに、同じ食事を摂っている。
- ・ 施設での食事の風景というと、職員は介助、利用者は食べる、という「楽しい食事」という状態ではないことが多い。
いろいろな話をしながら、一緒に食べるということで、楽しい時間をつくることを目的としている。
「美味しいですか？」という声かけではなく、「美味しいね」と共感しあえる時間は、職員、入居者にとって貴重な時間となっている。

日常の介護に係る費用の増加、設備面での向上など、ハード面での充実が困難ななかで、それをどれだけカバーできるか、何ができるか、今あるものを最大限に工夫し、活用することが必要である。

現場の創意・工夫があれば、生活の質の向上を実現できるものだと考えている。

2) レクリエーション・行事

入居者が有意義で楽しい時間を過ごせること、生きがいづくり、日常生活の楽しみを通して、残存機能の維持や機能回復のための訓練を行うこと、などを目的に、毎日のレクリエーション、年間を通して季節に応じた行事等を行っている。

《 午前中のレクリエーション 》

目的

- ・ 作品の制作を通して、指先の機能維持、思考力の向上をはかる
- ・ 作品を完成させることにより、充実感や達成感を得る

- ・自分の作った作品が何かの役に立つことで、喜びを得る

具体的プログラム

塗り絵	流行している『大人の塗り絵』を活用。それらの塗り絵を拡大し、色塗りをする。完成作品も美しく、満足感が高い。
雑巾縫い	古いタオル等で清掃用雑巾を縫う。
タオルたたみ	施設で使用する洗濯済みのタオルをたたむ。
カレンダー作り	画用紙の下半分に日付を記入し、上半分にその季節に応じた絵をつくる。その月に合った花、果物などを思い出し、図案を考えて作成する。個々人の能力に応じた難易度の塗り絵、貼り絵などを作成する。

カレンダー作りなど、完成した作品が居室やデイルームに展示されることで、充実感が得られている様子。

また、折り紙や色塗りなど、新しい課題に取り組むことが不得手な入居者であっても、タオルたたみや雑巾縫いなど、昔から行っていた作業は、スムーズに取り組み始める。

昼食の時間が来ても気付かないほど、集中して取り組む入居者も多い。

《 午後のレクリエーション 》

ゲーム・体操・歌などみんなでにぎやかに楽しめるプログラムを実施

目的

- ・皆で楽しい時間を過ごす
- ・上肢・下肢または身体全体を使うことにより、身体機能の維持、向上をはかる

具体的プログラム

バケツにシュート	得点を貼り付けたバケツやゴミ箱めがけてボールを投げ入れる。
お盆でリレー	チームごとに並び、お盆に載せたジュース缶を落とさないようにリレーする。
歌体操	童謡などに振り付けをつけ、歌いながら体操する。
人間輪投げ	2人1組になり、相手の頭・足などめがけて新聞紙の輪を投げる。

入居者が飽きないように、プログラムは毎日違う内容のものを実施。

お菓子の空き缶、バケツ、ゴミ箱など、身の回りにあるものは全て活用してゲームを創り出す。

最初は敬遠していた入居者も、参加後はゲームに熱中し、時間が経つのも忘れてる。

また、両下肢に麻痺がある入居者が、立ち上がってボールを投げようとし、車椅子から転落しそうになることもある。

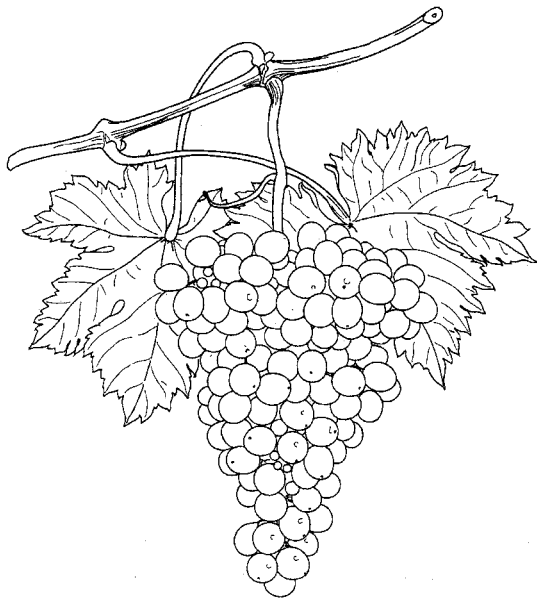
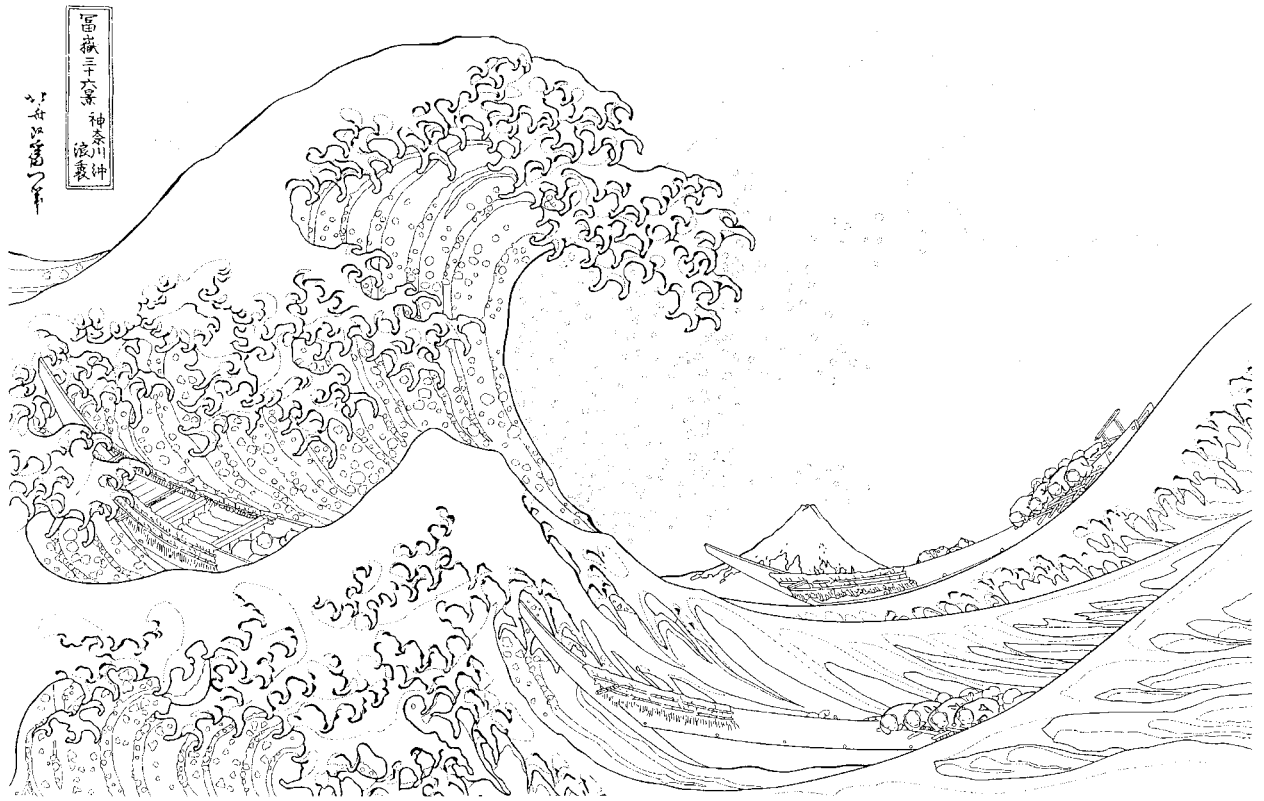
常に身体の衰えや障害と向き合い、悲観している高齢者が、時間を忘れ、自分の障害を忘れることができる。

たとえ一時でもそういう時間をつくりたい。

認知症の高齢者は、次の瞬間には全てを忘れてしまっても、楽しい、悲しいなどの気持ちだけは残っていく。

何をしていたか覚えていなくても、入居者が『なんとなくいい気分だ』と思える生活をめざしたい。

日常生活の『質の向上』とは、いかに入居者が楽しい時間を過ごせるかということだと考えている。



河出書房新社「大人の塗り絵」より引用

《 年間行事 》

施設内の生活だけでは、生活も単調になりがちで、入居者の楽しみをつくることにも限界がある。

また、元気だった頃のように、いろいろな所に出かけたいという入居者の願望をかなえるために、外出・一泊旅行などの企画も実施している。

	行事内容		行事内容
4月24日	サンドウィッチバイキング	1月10日	南町料理クラブ(お雑煮)
4月29日	4月誕生会	1月22日	1月誕生会&新年会
5月8日	5月料理クラブ(お好み焼き作り)	2月3日	2月誕生会&豆まき
5月15日	5月誕生会&和菓子バイキング	2月19日	南町料理クラブ(炊き込みご飯と豚汁)
5月24日	東西町おやつ作り「たこ焼き」	2月26日	おでんパーティー
5月29日	みんなでゲームを楽しもう	3月3日	3月誕生会&ひな祭り
6月12日	南町料理クラブ(まるごとバナナ)	3月12日	ちらし寿司作り
6月17日	6月誕生会&フルーツ作り	3月19日	ピクニック
6月19日	北町おやつ作り(パフェ)	3月19日	南町料理クラブ(ハンバーガー)
6月26日	6月料理クラブ(天ぷら)	3月21日	さつまいもとこしめんのマール巻き作り
7月10日	七夕祭り		
7月26日	7月誕生会&フルーツバイキング		外出・外泊企画
8月7日	スイカ割り	4月	桜ドライブ
8月12日	北町おやつ作り(クレープ)	9月	外出して気分転換を図る
8月21日	8月誕生会&清涼和菓子バイキング	9月	外の景色を見ながら寿司を食べて気分転換を図る
8月28日	北町おやつ作り(かき氷)	10月	温泉に入りおいしい料理を家族と共に(1泊旅行)
8月28日	南町料理クラブ(ホットケーキ)	10月	外の景色を見ながら寿司を食べて気分転換を図る
9月18日	南町料理クラブ(ふねやき&ジュース)	10月	秋の外出 花を見に行こう
9月25日	9月誕生会&プチケーキ作り	10月	温泉に入りおいしい料理を家族と共に(1泊旅行)
10月2日	10月料理クラブ(ぜんざい)	11月	外に出ることで気分転換を図りおいしい食事を頂く
10月16日	10月誕生会&お寿司バイキング	11月	外の景色を見ながら寿司を食べて気分転換を図る
10月30日	音楽会	11月	温泉に入りおいしい料理を家族と共に(1泊旅行)
11月13日	11月誕生会&秋のスイーツバイキング	11月	いつもと違う雰囲気の中でお寿司を食べ気分転換
	壁画展(+個人作品展)	1月	初詣に行こう
11月27日	南町料理クラブ(洲浜団子)		
12月16日	12月誕生会&クリスマス会(竹の台保育園児との交流会)		
12月18日	南町料理クラブ(芋あべかわ&絹ごし団子)		
12月29日	もちつき大会		

3 . ゆとりの介護

毎日、食事介助、排泄介助、入浴介助と次々と業務に追われ、職員は忙しく動きまわっている。

職員は忙しく動いていても、その場で生活する入居者は何もしていない時間が意外に多い。

《 業務分担表の改善 》

『南町（フロアの名称）の楽しい生活』という題名の資料が、いわゆる業務分担表である。

私たちの仕事は業務ではない。

入居者がより楽しく生活することができるよう、ともに生活していくことである。

それを職員全員が常に認識できるよう、名称から『業務』という言葉を取り除き、左欄に入居者の生活を並列させた。

入居者の生活を並列させて見比べた結果、入居者の生活の空白の部分が多くのことが明確になった。

実際には、排泄介助などでトイレに行っている時間もあるが、個々人がトイレにかかる時間は、数分間であるため、敢えて空白の時間とした。

《 業務の見直し 》

それらをふまえ、職員の業務の見直しを行った。

職員の動きを分け、必ず一人はデイルームに残り、利用者とともに過ごす時間をつくることにした。

その間の排泄介助などは残りの一人、または二人の職員で行うことになる。

《 結果 》

今までは見守りができないことによって、臥床せざるを得なかった入居者や、「家に帰りたい」と訴えて、一人ではデイルームで過ごすことができ

ない入居者が、職員とともにデイルームで過ごすことができるようになった。

それにより、離床や着床の介助量も減り、職員の介護量そのものも軽減することができた。

また、廊下や居室内を徘徊したり、ベランダに出ようとするのが頻繁にあった入居者が、デイルームに行けば、誰かがいる、何かをしている、という雰囲気を感じ始め、デイルームに向かって出てくるようになった。

時間に追われ、業務に追われ、記録に追われ・・・という日常生活の中で、「ちょっと・・・」と声をかけてきた入居者に「ちょっと待ってて」「後でね」という対応をしてしまいがちである。

全体の業務のうえに、決められた個人個人へのケアプランなど、現場での仕事は多忙を極める。

記録もケアプランも重要なことではあるが、そこに入居者の生活があることを忘れてはならない。

直前を記憶を失う高齢者にとって、「後で」は存在しない。そこに残るものは、不安や淋しさ、嫌な気持ちでしかない。

その時、その一瞬の利用者の思いや不安に応えることで、入居者が気持ちよく過ごせる生活空間をつくることができるのだと考えている。

入居者が気持ちよく過ごせる空間とは、質の高い生活空間である。

そのために、職員の忙しさを感じさせない、敢えてつくりだす「ゆとりの時間」が大切だと考えている。

*** 南町の楽しい生活 ***

お年寄りの生活		介護内容	早出	日S	日A	日B	遅出	夜勤	Pt	
起床	7:30	朝食前薬服用確認(ウォールポケット確認)	◎							
		起床介助(モーニングケア)・デイルームへ誘導・換気	◎					○		
		朝食準備	○					◎		
		朝食前後薬確認						◎		
朝食	8:00 ~	朝食配膳・介助(ウォールポケット確認後配膳)	○					◎		
		朝食前後薬配薬						◎		
		朝食下膳・片付け・デイルーム清掃 *全員の食事が終わるまでデイルームに一人は残る	○						◎	△
		居室誘導・臥床介助(口腔ケア)	◎						○	
		ケース記録などの確認・整理							◎	
9:00	9:00	申し送り(終了後、他の職員に連絡・報告)		◎					○	
		排泄介助・全トイレのゴミ箱と全居室のポータブルトイレの確認 全居室の窓が閉まっているか確認	○	○	◎					
		延食者食事介助							◎	
		点眼施行・ゴミ出し			◎					
		排泄チェック表記入漏れ確認		○	◎					
9:30	9:30	居室配茶				◎			○	
		看護師と薬箱確認・前日清掃済みのポータブルトイレ取り入れ				◎				
		入浴介助(日曜のみポータブルトイレ清掃・物品請求)	◎							
		ショートステイ入退所業務		◎						○
		10時のおやつ準備				◎				○
		離床介助・(手洗い・整髪)・デイルームへ誘導			◎	○				
レクリエーション	10:00 ~11:30	食間薬投薬				◎				
		ラジオ体操	必ず一人はデイルームに残り、 昼食までレクリエーション等を行う (日A・日S・日B)							
		水分摂取介助(デイルーム・居室) 利用者と楽しい時間を過ごす(レクリエーション) (11:00頃)排泄介助・トイレゴミ箱確認・チェック表記入漏れ確認								
11:15	昼食30分前薬投薬				◎					
昼	11:30	昼食30分前薬服用確認(ウォールポケット確認)					◎			
		11:30までの水分摂取量確認 (400cc以下の人の名前・摂取量を白板に記入)					◎			
		昼食前後薬確認				◎				
		離床介助(手洗い・整髪)・デイルームへ誘導・換気		○	◎	○	△			
		昼食準備					◎		○	
11:45	居室の換気確認			◎				○		
食	AM随時	髭剃り		○	○	◎				
		12:00	昼食配膳・介助(ウォールポケット確認後配膳)		○	○	◎	○		○
	12:30	昼食前後薬配薬				◎				
		全居室の窓閉め確認	◎							○
		昼食下膳・片付け・デイルームの清掃・記録整理 *全員の食事が終わるまでデイルームに一人は残る	◎					○		○
13:00	居室誘導・臥床介助(口腔ケア)	○					◎			
	13:00~	デイルームの見守り・利用者と楽しい時間を過ごす	◎							

日A・日B = フリー日勤 日S = ショートステイ担当日勤 = 介護を行う職員
Pt = パート職員 = 該当介護の責任職員 = 可能な範囲で介護を行う職員

お年寄りの生活		介護内容	早出	日S	日A	日B	遅出	夜勤	Pt
13:30 ~		排泄介助・トイレのゴミ箱確認・チェック表記入漏れ確認 全 確 デイルームの見守り・利用者と楽しい時間を過ごす							
		入浴介助(日・火・金=排泄介助) *場合によって、火・金も1Fにて入浴介助行うこともある	◎						
		入浴誘導(水・土=1F 月・木=2F)			◎				○
		ショートステイ入退所業務		◎					○
		園内買い物(木曜のみ)				◎			
		離床介助・デイルームへ誘導・レクリエーション準備 リネン交換(月~土)交換後はケース・リネン表に記入 *水・土は入浴の誘導を優先			◎	◎			○
レクリエーション	14:00	レクリエーション(最低2名は介助に入る) *原則はゲーム・歌		△	△	○	◎		
おやつ	15:00	離床確認		◎	○				
		おやつ確認・準備・配膳		○	○	◎			
		おやつ介助		○	△		◎		
		食間薬投薬				◎			
		居室配茶回収・ゴミ回収					◎		○
		ケース記録記入(入浴の記録は早出が記入)		○	○	◎	○		
		おやつ片付け・記録整理		○	○		◎		
16:00 ~ 17:30	16:00 ~ 17:30	排泄介助・ポータブルトイレ清掃・トイレ物品補充 チェック表記入モレ確認 デイルームの見守り・利用者と楽しい時間を過ごす							
		ごみ捨て・ダイパー車・クリーンルームの物品補充 ポータブルトイレ設置確認			◎				
	16:30	居室配茶・タオル交換準備 レクリエーション記録 排便チェック(排便-3日以上は看護師に報告)					◎		○
	随時	ショートステイ退所片付け・翌日入所準備		◎					○
		翌日の入浴着替え準備			○	◎			
	17:00	ショートステイ入所受け入れ・退所準備		◎					○
		申し送り 点眼施行・夕食30分前薬投薬				◎			◎
	17:15	配薬トレイ確認(確認後、看護師に報告)							◎
		離床介助(手洗い・整髪)・食堂へ誘導		△	○	◎	○	△	
	夕食	17:30	夕食早食対応			○	○	◎	
夕食準備								◎	○
夕食30分前薬服用確認(ウォールポケット確認) 点眼施行確認									◎
18:00 ~		夕食配膳・介助(ウォールポケット確認後配膳)			○	○	○	◎	○
		夕食前後薬配薬 夕食下膳・片付け・デイルーム清掃・記録整理 *全員の食事が終わるまでデイルームに必ず一人は残る				○	○	◎	○
18:30						◎	○		
19:00	排泄介助・タオル・靴下回収・全居室の窓施錠確認 ダイパー用エプロン洗濯					◎			

．第三者評価と日常生活における質の向上について

1．生活の質の理解

特別養護老人ホームと同じ生活空間で、20名の短期入所生活介護の利用者が生活をしている。

短期入所生活介護の利用者の家族に対して行ったアンケートの結果と自由記述欄に家族が記入した意見のいくつかを示す。

	大変満足	満足	普通	やや不満	不満
全体の評価	18	26	0	1	0
職員の介護に満足しているか	17	28	1	0	0
職員は親切に対応してくれるか	19	27	0	0	0
施設の備品・設備	13	25	2	2	0
食事	8	30	2	1	0
行事・レクリエーション	11	37	2	0	0
送迎に関して	24	18	0	0	0
自由記述欄に書かれた意見の一部					
施設へはあまり行く機会がないので、詳しいことはわかりませんが、時々行ってみて、家ではどのように介護を続けていけばよいか参考にしたいと思います。					
認知症のため、ショートステイでの生活を聞いても全然覚えていません。					
利用中の様子をもっと詳しく知らせていただくと、母の様子がわかって嬉しいです。					
本人は何も話してくれないので、そちらから知らせてください。					
私どもでは判断できませんので、本人に解答させました。					

家族の意見として、「施設での生活がわからないので、評価できない」という回答が多くみられた。

記憶を失くしてしまったり、自分の意思を訴えられない高齢者の日常生活や、それに対する感情を、たとえ家族であっても、他者に理解を得ることは困難なことだということが判明した。

現場の職員としても、施設で行われている介護やそこに生活する入居者の状況を家族や第三者に伝えるための自助努力が必要である。

今後は第三者評価が、家族やサービスを利用しようとする人への有効な情報伝達的手段となっていくと思われる。

現場の職員としては、第三者評価が、より高齢者の生活や感情を反映するものであってほしいと願う。

それが、結局は高齢者の生活の質へとつながっていくと考えている。

2．第三者評価と質の向上

毎日毎日の生活のなかで、自分たちの視点からでは、改善すべき点や不十分な点には気付きにくい。

第三者評価を通して、それらを認識し、そこから、何を変えていくのか、どう改善していくのか、評価を受けた後の対応に、生活の質の向上が懸かっていると考えている。

しかし、現場の職員は評価の項目に合わせた介護、よい評価を得るための介護をしているのではない。

直前の出来事を忘れてしまう認知症の高齢者、障害や疾病を抱えている高齢者が、たくさんの不安や苦しみを抱えていながらも、楽しく生活してほしいと願い、介護をしている。

評価は後からついてくるものだと考えている。

私たち現場の職員としては、高齢者がいかに楽しく生きているか、高齢者の生活、感情そのものが、施設の生活の質をはかる尺度であり、評価であると考えている。

プロフィール

横井 保子（よこい・やすこ）

本多聞高齢者介護支援センター ショートステイ副主任

1997年 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業

1998年 本多聞高齢者介護支援センター勤務（ショートステイ担当）

取得資格

1997年 社会福祉士

2001年 介護福祉士

2003年 介護支援専門員

특별양호 노인 홈에 있어서의 일상생활의 질의 향상



요코이 야스코
혼다몬 고령자 개호 지원센터
개호지원전문원

I. 시설의 개요

1. 시설의 설비·거실

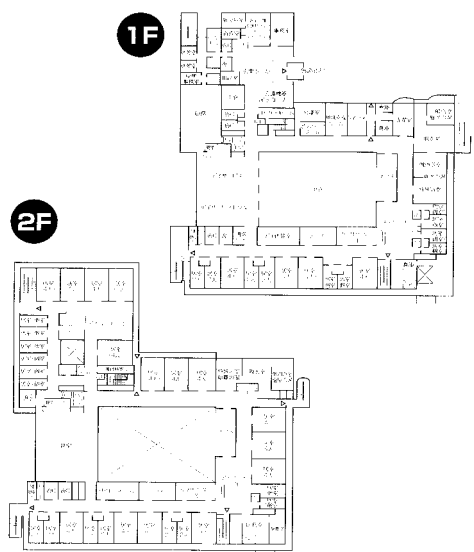
입소자수 : 특별양호노인홈 80베드 + 단기입소생활개호 30베드 = 110베드

거실수 : 개인실 14실, 2인실 10실, 4인실 19실

입소장소별 인원 : 1층 플로아 (단기입소생활 개호를 포함하여) = 30명

2층 플로아 = 26명 + 28명

인지증 플로아 (단기입소생활 개호를 포함하여) = 26명



*확대도면은 일본어판에 게재

2. 입소자의 요 개호도·연령분포

입소자의 요 개호도별 상황

	요지원4	요개호3	요개호2	요개호3	요개호4	요개호5
남 성	0	0	1	4	5	2
여 성	0	2	11	14	23	17
합 계	0	2	12	18	28	19
평균 요개호도 4						

입소자 연령 분포

	남성	여성	합계	비율
~64세	0	1	1	1.25%
65세~69세	0	0	0	0.00%
70세~74세	4	2	6	7.50%
75세~79세	1	5	6	7.50%
80세~84세	2	10	12	15.00%
85세~89세	3	17	20	25.00%
90세~94세	2	16	18	22.50%
95세~99세	1	12	13	16.25%
100세~	0	4	4	5.00%

연하장애로 인해 경관 영양을 실시하고 있는 입소자는 평상시 4명, 입소자의 90%가 인지증(치매)이 있다.

입소자의 개호도의 중도화, 연령의 고령화가 진행되고 있는 가운데 많은 장애와 질병에 대응할 개호가 요구되고 있다.

예) 신체적 장애가 없지만 인지증(치매) 고령자

→인지증(치매) 진행방지·배회로 인한 낙상방지

마비가 있는 고령자

→식사와 배회의 개호·경직의 방지·욕창의 방지

개인이 가지고 있는 장애와 질병이 다르면 개인이 요구하는 “생활의 질”도 다르다.

3. 비용부담

2005년 10월에 자기부담액이 달라져 재택 고령자와의 생활비용의 격차의 제정 때문에 식비·거주비가 자기부담이 되었다.

요개호도3의 입소자의 1개월 비용부담 예

(구제도)

(신제도)

단 계		⇒	단 계	2~4인실	개인실
1 단계	54,300엔		1 단계	24,300엔	34,220엔
2 단계	40,100엔		2 단계	37,010엔	40,110엔
3 단계 이상	50,939엔		3 단계	54,670엔	69,492엔
			4 단계	79,265엔	102,352엔

* 단계...개호보험료단계 (수입에 따라 단계가 결정)

제도 개정에 의해 자기 부담액에 증가된 입소자도 많다.

최근에는 특별 양호 노인홈을 이용하는 고령자와 고령자의 가족은

“이용 시켜 준다.”라는 감각에서 “이용한다. 선택한다.”라는 권리의식을 가지기 시작했다.

비용 부담액증액 식비 부담액의 증액보다 고령자와 고령자 가족이 보다 질 높은 서비스, 질 높은 식사내용을 요구하는 것도 당연한 일.

II. 일생생활의 「질의 향상」을 향하여

특별 양호 노인홈에서 일상생활의 “질의 향상”을 향하여 실제로 실행하고 있는 구체적인 연구 개호 내용을 소개한다.

1. 안전과 안심을 지킨다.

안전하고 안심할 수 있는 생활은 모두의 기본이다.

행동의 예측을 할 수 없는 고령자의 위험을 방지하는 것은 어려운 일이 많다.

그러나 입소자의 가족이나 제 3자의 측면에서 보면 안전을 지키는 것은 당연한 일이라고 본다.

앞에서도 말했듯이 이용자와 이용자의 가족의 권리의식이 높아져 개호

사고가 소송문제로 되는 일도 많다.

안전을 지키기 위한 연구로서 리스크 메니지먼트 위원회를 설치하여 사고가 일어나는 요인을 분석하고 대응책을 검토, 실시하고 있다.

1) 히아리햇트 보고서

일상생활과 개호 중에서 직원이 위험하다고 느낄 때(히아리 할때) 위험했을때 (햇트했을 때)를 매일 한 사람 최저 1장 “히아리햇트 보고서”에 기입

◎ 히아리햇트 보고서의 목적

- ① 위험 예측력을 몸에 익힌다.
- ② 위험에 대한 의식을 높인다.

2) 집계

히아리햇트 보고서를 1개월마다 집계하여 전 직원에게 배부하여 회람시킴

◎ 보고서의 집계와 배부의 목적

- ① 정보의 공유(자신이 없는 곳에서 생기는 위험을 안다.)
- ② 위험성을 의식 하는 능력의 향상(자신이 느끼지 못했던 위험이 사고가 되어 위험으로 연결 된다는 것을 느끼도록 함)

3) 분석

리스크 메니지먼트 위원회가 집계결과를 가지고 위험이 많이 생기는 장소, 시간 등을 분석하여 대책을 논의한다.

◎ 우선과제

- ① 사고, 또는 사고에 달하는 “히아리햇트”를 한 사례가 많이 일어나는 문제
- ② 중대한 사고로 연결되어 앞으로 위험성이 높은 문제

4) 대응책의 결정과 실시

분석의 결과를 참고하여 각 사례에 대응책을 결정한다.
결정된 대응책을 전 직원에게 주지시켜 실시해 간다.

현재, 노인복지시설에 「신체구속금지」가 의무화되어있다.
베드에서 떨어질 위험이 있는 입소자의 베드의 전부를 사이드레일로 둘러싸거나, 휠체어에서 미끄러져 떨어질 위험이 있는 입소자에게 안전하게 벨트를 하는 것도 금지되어 있다.

안전하게 보호한다는 것은 위험을 피하고 사고를 미리 방지하는 것이고 위험을 없애는 것은 아니다.

리스크 매니지먼트 활동의 구체적 사례

A씨 : 여성

하반신 근력저하에 의해 일어서기, 서 있기에 불안정
인지증이 있어 자신의 보행 능력 등은 자각하지 못하고, 환청 등을 호소하기도 한다.

(1) A씨의 히아리햇트 보고서의 집계결과

날짜	시간	장소	
8월 1일	16:45	거실	자신이 휠체어를 타고 이동한다. 이동시에 낙상할 위험이 있음
8월 3일	7:00	거실	자신이 휠체어를 타고 이동하려고 하지만 휠체어가 떨어져 이동 못하고 낙상의 위험이 있음
8월 10일	17:00	거실	자신이 휠체어에 이동했다. 화장실에 가려고 바지를 내린 채 이동하여 낙상의 위험이 있음
8월 24일	16:35	거실	베드에 앉아 있었음. 용건은 잘 모르지만 어딘가를 향하여 걸어가려는 상태
8월 28일	16:00	거실	자신이 휠체어로 이동하지만 반만 걸쳐 앉아있어 미끄러 떨어질 위험이 있음.
8월 29일	21:00	거실	베드에 앉아 신발을 신으려다가 베드 밑을 보고 있음. 바란스가 나빠서 베드에서 낙상할 위험이 있음.

(2)히아리햇트 보고서에 의해서 사고가 일어날 가능성이 높은 시간, 장소, 요인을 분석

(분석 결과)

- 데이룸에서 일어서는 일은 없으나 베드에서 자신의 힘으로 휠체어에 이동 하려는 경우가 있다.
- 16시부터 17시의 시간대에 걸쳐서 정신적으로 불안하여 어딘가를 걸어가려고 하는 경우가 있다.
- 휠체어를 베드의 가까이에 설치했을 경우는, 자신의 휠체어에 잘 이동하는 경우가 있다.

(3)분석을 가지고 전도(넘어짐)방지를 위하여 대응책을 결정

(대응)

- ① 짧은 베드사이드레일을 다리 쪽과 머리 부분에 설치하여, 일어나려고 할 때 잡을 수 있도록 함.
- ② 휠체어는 베드에 가깝게 하여 자신이 이동할 수 있도록 가능한 위치에 둔다.
- ③ 신발은 베드에 앉았을 때 본인의 눈에 보이는 곳에 둔다.
- ④ 16시부터 17시 사이에는 데이룸에서 직원과 지내고 레크레이션을 통하여 A씨의 정신적 안정을 살핀다.
- ⑤ 16시부터 17시 사이에 본인의 희망으로 베드에 이동한 경우는 자주 살펴 피어 A씨의 상태를 관찰한다.

위험과 사고를 방지하기 위하여 대응 하여도 불안정하여도 걸을 수 있는 입소자에게 전도(넘어짐)방지를 위하여 휠체어를 사용하는 것은 좋지 않다. 넘어지지 않도록 보살피면서 견게하고 보행능력에 알맞은 보행 보조 용구를 사용하는 등의 대응이 필요하다. “견고싶다” “일어나고 싶다”라는 입소자의 의사를 뺏지 말아야 한다.

입소자의 자유, 희망, 가능성을 존중하면서 여기에 위험이 따르는 것을 예측하여 사고를 미연에 방지하는 것이 입소자의 안전을 지키는 일이고 생활의 질을 유지하는 일일 것이다.

2. 창의 ·고안

1) 식사면 예서의 고안

입소자의 식비부담이 커서 식사에 기대를 못하는 반면 시설 수입으로서 식비의 증액이 없어 재료 등에 비용을 쓰지 못하는 것이 현실이다. 식사에 비용을 쓰지 못한 만큼 식사시간을 소중히 하는 것을 목표로 하고 있다.

《선택메뉴》

- 반찬을 “고기요리” “생선요리”등 두 가지의 메뉴를 준비하여 입소자가 메뉴를 선택할 수 있도록 한다.
사전의 준비가 필요하기 때문에 당일 아침까지 선택을 하게 한다.
- 간식 메뉴도 취향이 다른 간식을 준비하고 식사 때 국도 두 종류 준비한다.
- 사전에 선택하게 하지 말고 그 장소에서 어느 것을 드실 것인지 선택한다.
- 정해진 시간에 정해진 식사를 드시는 것에 적응되신 입소자는 “선택”이라는 자기결정의 기회가 되고 있다.

《밥을 만든다》

- 플로아에 밥솥을 설치하여 입소자가 쌀을 씻고 저녁을 하기 위하여 밥을 만든다.
- 시설 설비 상 플로아 안에서 부엌이나 불을 사용할 수 있는 장소가 없기 때문에 현재 매일 식사 준비를 하는 것은 밥을 만드는 것 밖에 할 수 없다.
- 인지증의 고령자이더라도 옛날부터 매일 해 왔던 쌀을 씻고 물의 양을 재는 것은 할 수 있기 때문에, 밥 만드는 일은 가능하다.

《간식·요리 만들기》

- 매월 1회 ~2회 정도 입소자와 직원이 함께 점심과 간식을 만들어 먹는다.
- 계절에 맞는 메뉴→치라시 스시·조림
- 이용자의 고향요리·이용자로부터 리퀘스트가 있는 메뉴→타코야끼·고향의 정월 요리
- 간식 만들기→오하기 모찌 경단 등
- 설비가 불충분하기 때문에 냄비나 휴대용 곤로 등을 직원이 각 가정에서 가지고 와서 요리를 한다.
- 필요이상 시간이 걸리고 실패하기도 하지만 인기가 있다.

《함께 식사를 한다.》

- 식사 개호담당 이외의 직원과 휴식시간에 들어가는 직원이 입소자와 함께 식사를 한다.
- 시설에서 식사의 풍경이란 직원개호, 이용자의 「즐거운 식사」가 아닌 경우가 많다.
많은 이야기를 하면서 함께 먹는다는 즐거운 시간을 만드는 것을 목적으로 하고 있다.
“맛있습니까?”라고 하는 것 보다는 “맛있네요”라는 공감을 하는 시간은 직원,입소자에게 있어서 중요한 시간이 되고 있다.

평상시 개호에 드는 비용의 증가 설비면으로 향상하는 등 하드면에서의 충실이 어려운 중에 어느정도 보완할 수 있는지 무엇을 할 수 있는지 지금 있는 것을 가지고 가장 최대로 활용하는 것이 중요하다.

창의·준비가 있다면 생활의 질의 향상을 실현 할 수 있다고 생각하고 있다.

2)레크레이션 행사

입소자가 의의 있고 즐거운 시간을 보내는 것 보람이 생기는 것,일상생활의 즐거움을 통하여 남은 기능유지와 기능 회복을 위하여 훈련을 하는 것 등을 목적으로 매일 레크레이션, 연간을 통하여 계절에 맞는 행사 등을 하고

있다.

《오전 중의 레크레이션》

● 목적 ● :

- 작품의 제작을 통하여 손가락 기능 유지, 사고력을 향상 시킨다.
- 작품을 완성시키기보다 충실감과 달성감을 얻는다.
- 자신이 만든 작품이 무언가에 도움이 된다는 점에서 기쁨을 얻는다.

● 구체적인 프로그램 ●

색칠하기	유행하고 있는 『어른용 그림 색칠』을 활용, 그림을 확대하여 색칠을 한다. 완성작품도 아름답고 만족감이 높다.
걸레 만들기	오래된 타월로 청소용 걸레를 만든다.
타올 개기	시설에서 사용하는 세탁된 타올을 깬다.
카렌다 만들기	큰 종이에 밑 부분에는 날짜를 기입하고 윗부분에는 계절에 어울리는 그림을 그린다. 그 달에 어울리는 꽃, 과일 등을 생각하고 도안을 생각해 내어 도안한다. 개인 개인의 능력에 맞는 난이도의 그림 (색칠, 붙이기) 등을 그린다.

카렌다 만들기 등 완성된 작품이 거실과 데이룸에 전시됨으로써 충실감을 얻을 수 있다.

또 종이접기 색칠하기 새로운 과제에 접하기 어려운 입소자도 타월개기와 걸레 만들기 등 옛날부터 해온 작업은 순조롭다.

점심시간이 되어도 시간 가는 줄 모르는 등 집중하는 입소자도 많다.

《오후의 레크레이션》

게임·체조·노래 등 모두 즐겁게 프로그램을 실시

● 목적 ●

- 모두 즐겁게 시간을 보낸다.
- 상반신, 하반신의 몸 전체를 사용함으로써 신체기능의 유지, 향상을 도모한다.

●구체적 프로그램●

바케스에 슛	득점이라고 쓰여진 바케스에 공을 던진다.
쟁반으로 릴레이	팀을 나누어 쟁반에 주스깡통을 놓고 떨어지지 않도록 릴레이 한다.
노래·체조	동요 등 노래를 하면서 색깔 천을 들고 체조한다.
짝지어가기	2인 1조가 되어 상대의 머리·다리 등을 묶고 신문지 고리를 던진다.

입소자가 싫증나지 않도록 프로그램을 매일 다른 내용의 것으로 실시.

과자깡통, 바케스 등 주위에 있는 것은 전부 활용하여 게임을 한다.

처음에는 참가하지 않은 이용자도 참가하여 게임에 열중하고 시간 가는 줄 모른다.

또 하반신에 마비가 있는 입소자가 서서 불을 던지고 휠체어에서 낙상하는 일도 있다.

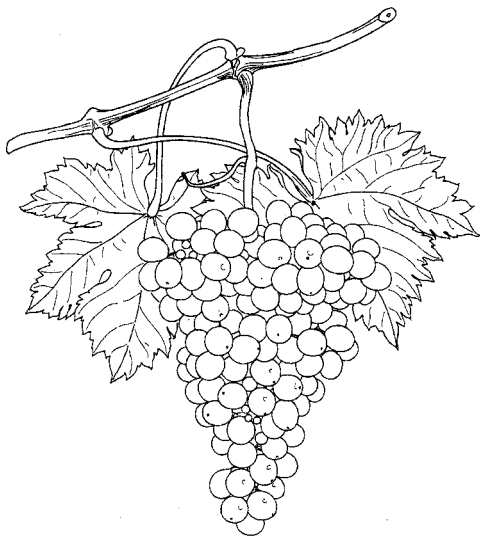
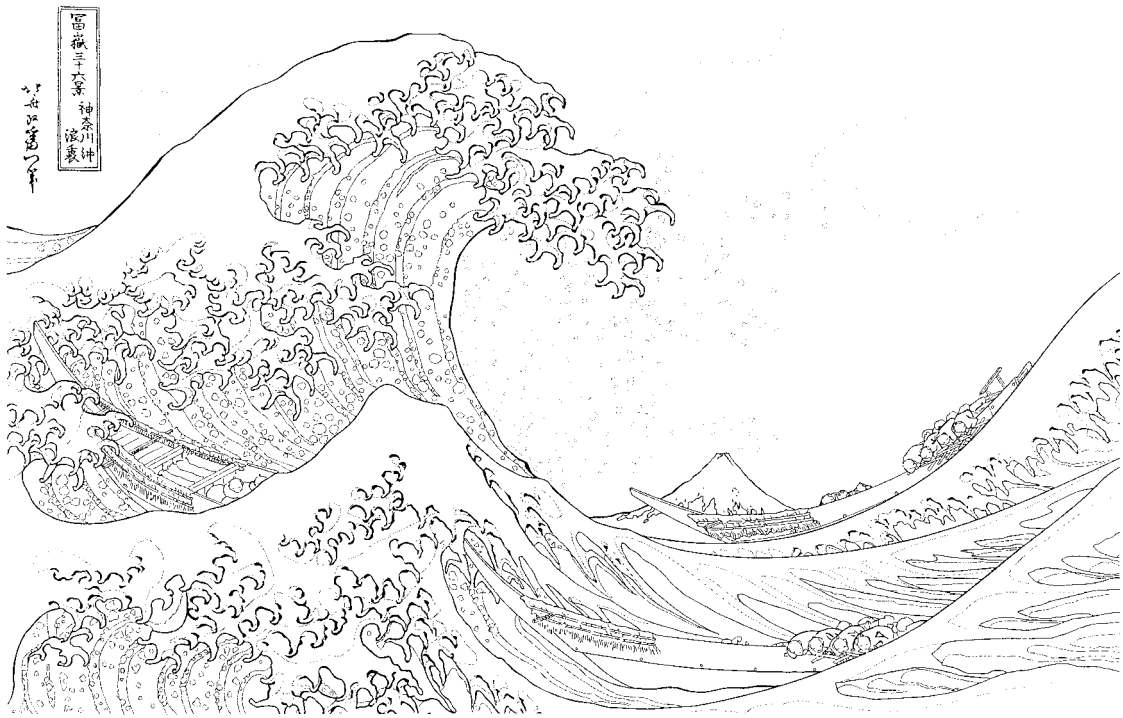
신체가 쇠약하고 장애를 가지고 있어 비관하고 있는 고령자가 시간 가는 줄 모르고 자신의 장애를 의식하지 않는다.

잠시라도 그러한 시간을 만들어 드린다.

인지증(치매)의 고령자가 모든 것을 잊어버려도 즐거움과 슬픔등의 감정은 느낀다.

무엇을 했는지 기억해 내지 못해도 입소자가 “어쩐지 기분이 좋다”라는 생활을 목표로 한다.

일상생활의 “질의 향상”이란 입소자가 얼마나 즐겁게 시간을 보내는지에 달려 있다고 본다.



가와테서방신사 “어른 색칠 그림”에서 인용

《년간 행사》

시설 안에서의 생활만으로는 생활도 단조롭고 입소자에게 즐거움을 만들어 드리는 일에 한계이다.

또 건강했을 때처럼 외출하고 싶다는 입소자의 희망을 들어드리기 위해서 외출·1박 여행 등의 기획도 실시하고 있다.

	행사내용		행사내용
4월 24일	샌드위치 뷔페	1월 10일	지역 요리반
4월 29일	4월 생일잔치	1월 22일	1월 생일잔치, 신년회
5월 8일	5월 요리반(오코노미야키 만들기)	2월 3일	2월 생일 잔치, 콩던지기
5월 15일	5월 생일잔치, 일본과자 만들기	2월 19일	지역요리(타코고미밥과 돼지고기국)
5월 24일	지역 과자 만들기 (타코야키)	2월 26일	오뎅 파티
5월 29일	모두 함께하는 게임	3월 3일	3월 생일잔치, 여자아이날 잔치
6월 12일	지역요리반(그대로 바나나)	3월 12일	치라시스시 만들기
6월 17일	6월 생일잔치, 후룻채 만들기	3월 19일	소풍
6월 19일	지역간식 만들기 (파페)	3월 19일	지역 요리반(햄버거)
6월 26일	6월 요리반 (텐푸라)	3월 21일	고구마 요리
7월 10일	7월 7석잔치		외출·외박 기획
7월 26일	7월 생일 잔치, 과일 뷔페	4월	사쿠라 꽃 구경
8월 7일	수박깨기	9월	외출하여 기분전환
8월 12일	지역 간식 만들기(그래프)	9월	밖에서 경치를 보면서 스시를 먹고 기분전환
8월 21일	8월 생일 잔치, 일본과자 뷔페	10월	온천에 가서 맛있는 음식을 먹고 가족과 함께 (1박여행)
8월 28일	지역 간식 만들기 (빙수)	10월	밖에서 경치를 보면서 스시를 먹고 기분전환
8월 28일	지역 요리반(핫 케익)	10월	가을외출 꽃구경
9월 18일	지역요리반 (배요리와 쥬스)	10월	온천에가서 맛있는 음식을 먹고 가족과 함께 (1박여행)
9월 25일	9월 생일잔치 그리고 케익만들기	11월	밖에서 경치를 보면서 스시를 먹고 기분전환
10월 2일	10월 요리반 (젠자이)	11월	가을 외출 꽃구경
10월 16일	10월 생일잔치, 스시뷔페	11월	온천에 가서 맛있는 음식을 먹고 가족과 함께(1박여행)
10월 30일	음악회	11월	항상 다른 기분속에서 스시를 먹고 기분전환
11월 13일	11월 생일잔치, 가을 음식 뷔페 (벽화전+개인 작품전)	1월	정월의 첫 참배
11월 27일	지역 요리반 (경단)		
12월 16일	12월 생일잔치, 크리스마스회 (유치원과의 교류)		
12월 18일	지역 요리반		
12월 29일	모찌 찜기대회		

3. 여유있는 개호

매일 식사개호, 배설 개호, 입욕개호등의 업무에 쫓기어 직원은 바쁘게 일한다.

직원은 바쁘게 일하여도 생활하고 있는 입소자는 아무것도 하지 않는 시간이 의외로 많다.

《 업무분담표 개선 》

“미나미마치(후로아 명칭)의 즐거운 생활”이라는 제목의 자료가 말하자면 업무 분담표이다.

우리들의 일은 업무가 아니다.

입소자가 보다 즐겁게 생활할 수 있도록 함께 생활해 간다.

직원 모두가 의식을 하면서 “업무”라는 명칭의 말을 없애고 왼쪽 란에 입소자의 생활이라고 썼다.

입소자의 생활이라고 쓴 결과 입소자의 생활에 공백 부분이 많았다. 실제로 배설 개호 등으로 화장실에서 보내는 시간도 있지만 개인이 화장실에서 보내는 시간은 몇분이기 때문에 공백의 시간이 많다.

《 업무의 개선 》

직원의 업무를 개선했다.

직원의 움직임을 나누어 반드시 한 사람은 테이블에 남고 이용자와 함께 지내는 시간을 만들었다.

그 동안 배설 개호 등은 남은 한 사람 또는 두 사람의 직원으로 했다.

《 결 과 》

지금까지는 보호를 하지 못하였는데 누워있지 않으면 안 되는 입소자와 “집에 가고 싶다고”호소하여 혼자서는 테이블에서 지내지 못하는 입소자가 직원과 함께 테이블에서 지낼 수 있게 되었다.

그래서 개호양도 적어지고 직원의 개호양도 경감하게 되었다.

또 마루와 거실사이를 배회하여 베란다에 나가려고 하는 입소자도 데이룸에 가면 누군가가 있다. 무언가를 하고 있다라는 분위기를 느끼기 시작하여 데이룸을 향하게 되었다.

시간의 흐름으로 업무의 흐름으로 기록에 의해서...라는 일상생활 속에서 “잠깐만...”이라고 말을 거는 입소자에게 “잠깐만 기다리세요” “나중에”라는 대응을 해버리기 쉽다.

전체 업무 중에서 결정된 개인 개인에게 케어플랜 등 현장에서의 일은 매우 바쁘다.

기록도 케어플랜도 중요한 일이지만 여기에 입소자의 생활이 있다는 것을 잊어서는 안 된다.

바로전의 기억을 잃어버린 고령자에게 있어서 “나중에”는 존재하지 않는다.

여기에 남은 것은 불안과 외로움, 싫은 기분뿐이다.

그때, 그 순간의 이용자의 생각과 불안에 대응하여 입소자가 기분 좋게 지낼 수 있도록 생활공간을 만드는 일이다.

입소자가 기분 좋게 지내는 공간이란 질 높은 생활공간이다.

그러기 위해서는 바빠하는 직원을 느끼지 않게 하여 “여유 있는 시간”이 되게 하는 것이 중요하다.

*** 미나미 마치의 즐거운 생활 ***

어르신들의 생활		개호내용	이 른 출 근	일 근 S	일 근 A	일 근 B	늦 출 근	야 근	pt		
기 상	7:30	아침 식사전 약 복용 확인	◎								
		기상 개호(아침 케어)·테이블에 유도·환기	◎					○			
		아침 식사 준비	○						◎		
		아침 식사 전후 약 복용 확인							◎		
아침 식사	8:00 ~	아침 식사 배분·개호	○						◎		
		아침 식사 전후 약배약							◎		
		아침식사 뒷정리·테이블 청소	○							◎ △	
		※전원 식사가 끝날 때 까지 테이블에서는 1명대기									
		거실유도·베드 개호(구강 케어)	◎							○	
		케tm 기록등의 확인·정리							◎		
	9:00	아침 미팅(종료 후, 다른 직원에게 연결·보고)		◎						○	
		배설 개호 화장실의 쓰레기와 거실의 휴대용 화장실 확인, 거실의 창문이 닫혀져 있는지 확인	○	○	◎						
		남아서 식사하신 어르신 식사 개호								◎	
		안약 투약, 쓰레기 버리기			◎						
		배설 체크표 기입 확인		○	◎						
	9:30	거실에 오차제공					◎			○	
		간호원과 약상자 확인, 전일청소 마치고 휴대용화장실바꾸기					◎				
		입욕개호(일요일에만 휴대용 화장실 청소 물품 청구)	◎								
		쇼트스태이 입 퇴소 업무		◎							○
		10시에 간식 준비					◎				○
		베드 개호(손 씻기, 머리 단장하기) 테이블에 유도, 환기			◎	○					
레크레 이션	10:00	투약					◎				
	10:00 ~ 11:30	라디오체조 수분 섭취 개호(테이블, 거실) 이용자와 즐거운 시간보내기(레크레이션) (11:00경)배설개호, 화장실 쓰레기확인, 체크기입확인	반드시 1명은 테이블에 남아서 점심까지 레크레이션을 한다 (일근A,S,B)								
	11:30	점심30분전 약복용					◎				
	11:15	점심 30분전 약복용 확인 11:30분까지 수분섭취량 확인 (400cc이하 드신분의 이름, 섭취량을 기입) 점심식사 전후약확인					◎				
점심식 사	11:30	베드개호(손 씻기, 머리단장) 테이블에 유도, 환기		○	◎	○					
		식사준비						◎	○		
		거실 환기 확인			◎					○	
		수시 면도		○	○	◎					
	12:00	점심 배분 개호		○	○	◎	○			○	
		점심 전후 배약					◎				
	12:30	거실의 창문 닫기 확인	◎							○	
		점심 뒷정리, 테이블 청소, 기록 확인									
※전원 식사가 끝날 때 까지 테이블에 1명대기 거실유도, 베드개호(구강 케어)		◎						○	○		
		거실유도, 베드개호(구강케어)	○					◎			
13:00	테이블에서 이용자와 즐거운 시간 갖기	◎									

日HA·日B = 플리일근 日S = 단기입소담당일근 ○ = 개호를 하는 직원 Pt = 파트직원

◎ = 해당개호의 책임직원 △ = 가능성내에서 개호를 하는 직원

어르신들의 생활		개호내용	이 른 출 근	일 근 S	일 근 A	일 근 B	늦 출 근	야 근	pt	
	13:30 ~	배설개호, 화장실쓰레기 확인, 체크표 기입 확인 안전확인 데이룸에서 이용자와 즐거운 시간 보내기 입욕개호(일·화·금=배설개호) ※경우에 따라 화, 금도 1층에서 입욕 개호	◎							
		입욕유도(수, 토=배설개호)			◎				○	
		입욕유도(수, 토=1층 월,목=2층)		◎						○
		쇼트스태이 입 퇴소 업무				◎				
		원내 쇼핑(목요일)			○	◎				
		개호, 데이룸에 유도, 레크레이션 준비								○
		리넨 교환(월~토)교환후는 케이스, 리넨표에 기입 ※ 수,목은 입욕 유도를 우선				◎				
		레크레 이션	14:00 레크레이션(최저 2명은 개호) ※원칙은 게임, 노래		△	△	○	◎		
간식	15:00	베드에서 이동확인		◎	○					
		간식 확인, 준비, 배선		○	○	◎				
		간식 개호		○			◎			
		식사전 약투약				◎				
		거실 오차 회수, 쓰레기 회수					◎		○	
		케스 기록 기입(입욕의 기록은 이른 출근이 기입)		○	○	◎	○			
간식 뒷정리 기록정리		○	○		◎					
	16:00 ~	배설개호, 휴대용 화장실 청소, 화장실 물품보충 체크표 기입 확인 데이룸에 대기 이용자와 즐거운 시간 보내기								
		17:30 쓰레기 비우기 등 야근 준비 휴대용, 화장실 설치 확인			◎					
	16:30	거실 오차 배부, 타월교환 준비					◎		○	
		레크레이션 기록 배변 체크(배변, 3일 이상은 간호원에게 보고)					◎			
	수시	쇼트 스테이 퇴소 뒷 정리, 다음날 입소 준비		◎					○	
		다음날 입욕 준비			○	◎				
		쇼트 스테이 입소 준비, 퇴소 준비		◎					○	
	17:00	미팅 안약 투약, 저녁식사 30분전 투약				◎				
		17:15	배약 화장실 확인(확인후 간호원에게 보고) 베드 개호 (손 씻기, 머리정리)식당에 유도		△	○	◎	○	△	
	저녁식 사		17:30 야식, 조식 대응 저녁식사 준비 저녁식사 30분전 약 복용 확인, 안약 투약확인			○	○	◎		◎
18:00 ~		저녁 식사 배분, 개호 저녁 식사 뒷정리 데이룸에 1명대기 ※전원 식사가 끝날 때 까지 데이룸에 1명대기			○	○	◎		○	
		18:30					◎	○		
19:00		배설 개호 타월, 양말회수, 전 거실 창문 단속 에프론 세탁					◎		◎	

Ⅲ. 제 3자 평가와 일상생활에 있어서 질의 향상에 관해서

1. 생활의 질의 이해

특별 양호 노인홈에 같은 생활공간에서 20명의 단기 입소생활 개호의 이용자가 생활하고 있다.

단기 입소생활 개호의 이용자의 가족에게 앙케이트결과와 의견란에 가족이 기입한 의견을 몇 개 소개한다.

	매우 만족	만족	보통	약간 불만	불만
전체 평가	18	26	0	1	0
직원의 개호에 만족하고 있는가	17	28	1	0	0
직원은 친절한가	19	27	0	0	0
시설의 비품·설비	13	25	2	2	0
식사	8	30	2	1	0
행사·레크레이션	11	37	2	0	0
마중배웅에 관해서	27	18	0	0	0
자유기술란에 쓰여진 의견란 일부					
시설에 별로 면회가는 기회가 없어서 자세한 것은 잘 모르지만 가끔 가보면 집에서는 어떻게 개호를 하면 좋을지 참고로 하고 싶다고 생각한다.					
인지증 때문에 쇼트 스테이에서의 생활을 물어보아도 전혀 기억하고 있지 않는다. 이용 중의 상태를 더욱 자세하게 알려주면 어머니의 상태를 알게 되어 기쁠것 같다.					
본인은 아무말도 하지 않으므로 시설측에서 알려 주세요					
우리들로서는 판단하지 못하니 본인에게 물어 보았다.					

가족의 의견으로는 “시설에서의 생활을 알 수 없기 때문에 평가할 수 없다”라는 답변이 많았다. 기억을 잃어버리고 자신의 의견을 호소하지 않는 고령자의 일상생활과 여기에 대한 감정을 가족이라고 하더라도 타인에게 이해를 얻는 것은 어려운 일이라는 것이 판명되었다.

현장의 직원이라고 해도 시설에서의 개호와 생활하는 입소자의 상황을 가족과 제3자에게 전하기 위하여 스스로의 노력이 필요하다.

앞으로 제 3자 평가가 가족과 서비스를 이용하려고 하는 사람에게 유효한

정보 전달의 수단이 되어질 것이라 여겨진다.

현장의 직원으로서 제 3자의 평가가 고령자의 생활과 감정을 반영하는 것이 되기를 바라는 바이다.

결국은 고령자의 생활의 질에 직결되어질 것이라 생각되기 때문이다.

2. 제3자 평가와 질의 향상

매일 매일의 생활속에서 자신들의 시점에서는 개선점이나 불충분한 점을 미처 깨닫지 못하는 경우가 많다.

제3자평가를 통하여 이것들을 인식하고 무엇을 바꾸어 나갈 것인가 무엇을 개선해 나갈 것인가, 평가를 받은 뒤의 대응에 생활의 질의 향상이 관계하고 있다는 것이 생각된다.

그러나 현장의 직원은 평가항목에 맞는 개호, 좋은 평가를 얻기 위한 개호를 하고 있는 것은 아니다.

직전에 일어난 일을 잊어버리는 인지증(치매)의 고령자. 장애와 질병을 가지고 있는 고령자가 많은 불안과 어려움을 가지고 있으면서도 즐거운 생활을 보내기를 원하는 바램속에서 개호를 하고 있다

평가는 그다음에 생각하는 것이라 여기고 있다.

부디 현장의 직원으로서 고령자가 얼마나 즐겁게 생활하고 있는지 고령자의 생활, 감정 그자체가 시설의 생활의 질을 재는 척도이고 평가라고 생각한다.

프로필

요코이 야스코 (横井 保子)

혼다본 고령자 개호지원센터 쇼트스태이 부주임

1997년 일본복지대학 사회복지학부 사회복지학과 졸업

1998년 혼다본 고령자 개호지원센터 근무 (쇼트스태이 담당)

취득자격

1997년 사회복지사

2001년 개호복지사

2003년 개호지원전문원